

**本園の教育
目標**

幼稚園に係るすべての人が成長と喜びを感じることの出来る幼稚園にすることを目標としている。豊かな自然の中での幼児の遊びを通しての教育を目標としている。幼児が自分で考え選択し行動できる教育を目標としている。

本年度の重点的に取り組む目標

- ① 本園の教育目標「共生」を基にした保育計画に基いた保育を実施する
- ② 自園給食、食育に対する取り組みについて
- ③ さくら・さくらんぼリズムについて
- ④ 自然保育について

評価項目

取組状況と結果

本園の教育目標を取り入れた保育計画を立てて保育を行うことができたか。

子どもたちの意見をもとにやってみたいことを保育に取り入れるという事を、年間を通じて出来るようになってきていると思う。子ども主体の保育をさらに目指していきたい。低年齢児に限らず生活習慣や基本的な成長の土台が出来ていない子どもが目立つように思う。園での生活と遊びのなかで人間としての基盤を築いていくことが園の役割だと思う。

A
B
C
D

自園給食、食育に対する取り組みについて

お米づくりは苗作りから始まり稲刈りや脱穀まで子どもたちで行うことができ、給食で出してみんなで作ったご飯のおいしさを味わっていた。年中の落花生は上手いかなかったが、頂いた落花生を塩ゆでして食べる事ができた。園内の畑ではサツマイモを植えたが不作であった。

A
B
C
D

さくらさくらんぼリズムについて

さくら・さくらんぼリズムは2年目となり、年少と年中で行った。特に年中は去年の内容をさらに充実させ子どもたちの体づくりにつながったと思う。これからも継続していきたい、子どもたちの運動、健康面をサポートしていきたいと思う。

A
B
C
D

自然保育について。

ムッレ教室は、最後の葉緑素の話まで行えて、子どもなりに自然の循環に気付くことが出来たのではないかなと思う。上西郷川への川遊びは今年は年中、年長とも2回行くことが出来た。また、秋の七草を園内の色んな所に植えて、どこに何があるかを探するという活動も出来た。園内の自然環境は今後も充実させていきたいと思う。

A
B
C
D

本園の総合的な評価結果と今後の課題

重点的に取り組む評価項目については職員会議などを通してそれぞれ自己点検・自己評価を行なった。

●今年も子どもたちの毎日の生活や遊びを通しての保育を行うことができたと思う。又一年間を通じての保育や子どもたちの成長を感じている。子どもたちの遊びは創造的になってきていて、クヌギのどんぐりを削ってサイコロを作るどんぐりサイコロが大流行した。その他、砂場で作ったお山に「こわさないで」と張り紙をして、何日にもわたって色々な子が自分のクラスのお山づくりに参加するなど一つの遊びが何日も持続するようになってきた。のびのびとした時間の中、遊びに集中することで子どもたちの創造性や社会性が成長してきているのを感じた。

●大きなプランターでの園芸活動は暑さで一学期は上手くいかなかったが、秋の小松菜は種を植える所から始めて成長を観察・収穫し、おひたしにして食べる事ができた。子どもたちも大きな関心を持ち、収穫や調理に取り組み、出汁の香りや小松菜の苦みなどを感じるいい食育活動になったと思う。今後も色々な作物を植え、五感を通しての食育活動にしていきたい。さらに、園内の畑では年長が夏野菜を植え、ズッキーニやオクラを給食で食べる事ができた。年中も落花生は上手く出来なかったが、頂いたものを塩ゆでして食べる事ができたのは貴重な経験になったと思う。サツマイモにこだわらず色々な作物を植え、色々な食育活動をさらに充実させていきたい。

●年長は7月に例年の夏の催しを行った。今年は「はッピーしらぎくぱーく」という名前だった。最初の2年間は夏祭りであったが、去年から名前も少し変わり、内容も今年はお店屋さんごっこではない、各クラス独自の内容になってきた。子どもたちの話し合いやアイデアを元に発展させていき、子ども主体の協同的な学びにつながったと思う。職員も子ども達のアイデアや言葉を取り上げ、実現までもっていく事が出来るようになってきていると思う。今後も子どもたちの興味や関心を広げて子ども主体の保育を充実させていきたい。

●来年度から認定こども園に移行する。今年よりも低年齢の子どもや保育の必要がある子どもが増えるが、0歳から5歳児までの発達・成長を職員が理解して保育していければ今まで見えてなかった時期の子どもたちの成長を理解し支えるという意味でとても良いことだと思う。また福津市は待機児童も依然多く、地域のニーズに応えていくことも必要だと思う。そのためには色々な時間帯での職員の配置が必要だが、早番と遅番の職員の確保が問題である。多様な働き方が出来るパートを増やしていく必要がある。また、残業についての職員の意識も変わってきており改革には職員も意識をもって取り組む必要がある。

今年度は以上の通り自己評価します。

しらぎく幼稚園

園長 塩川陽一